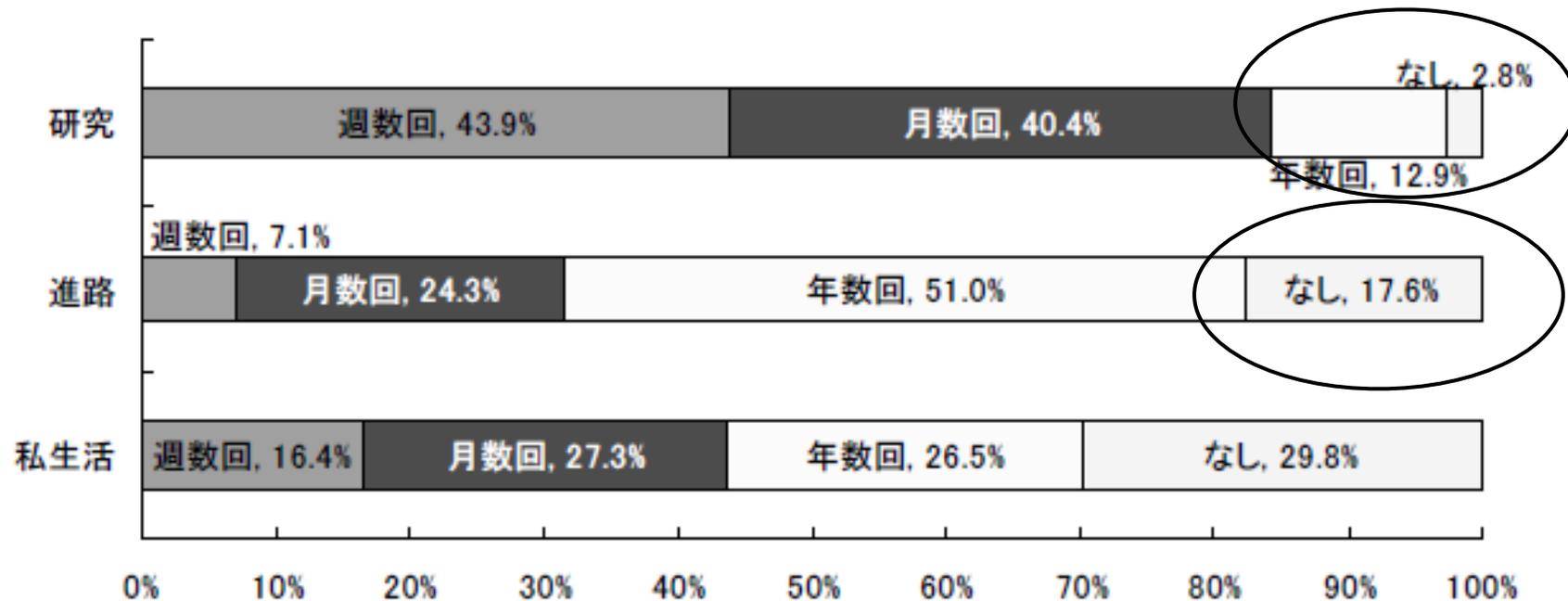


○ 進路については、研究リーダーと意見交換をしないポストドクター等が2割弱を占める。



※「研究」、「進路」、「私生活」といった話題別に、話し合う頻度を比率で図示。

- これでは人は大学院にこない。
- 適切な人材育成が行われているかを科学予算の資金配分の評価の基準に加える必要がある。

重点化前とのメンタリティの比較

- 重点化直前 年4000人の大学ポストに 6000人の博士課程卒業者。ほぼ 2/3 がアカデミックに。現在 4000人の大学ポストに 12000人の博士課程卒業者。しかし教育スタッフは増えていない。院生の研究現場継承意識が減退。
 - 就職難をみこしてPD が国内に固着。（将来の海外経験の不足）
- プロジェクト研究への予算の配分が多くなり 独自の研究スタイルが確立しがたい。博士課程進学者の減少が始まる。
- 大学予算的は大幅減。基盤経費から競争的資金獲得中心へ。
- 短期的な業績の評価にウエイト（教員側、特に任期付）チャレンジのない研究に対して学生が失望。